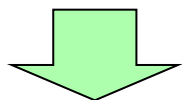


大津市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年7月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 現在でも約1,600件の町家が残る「大津百町」と呼ばれた古都の風格あるまちなみ景観 (H15 全国で10番目の「古都」に指定)
- 琵琶湖に面した豊かな自然環境と環境保全に対する意識の高まり
- 周辺地域におけるベッタウン化の進展に伴う大規模小売店舗の郊外への集中立地

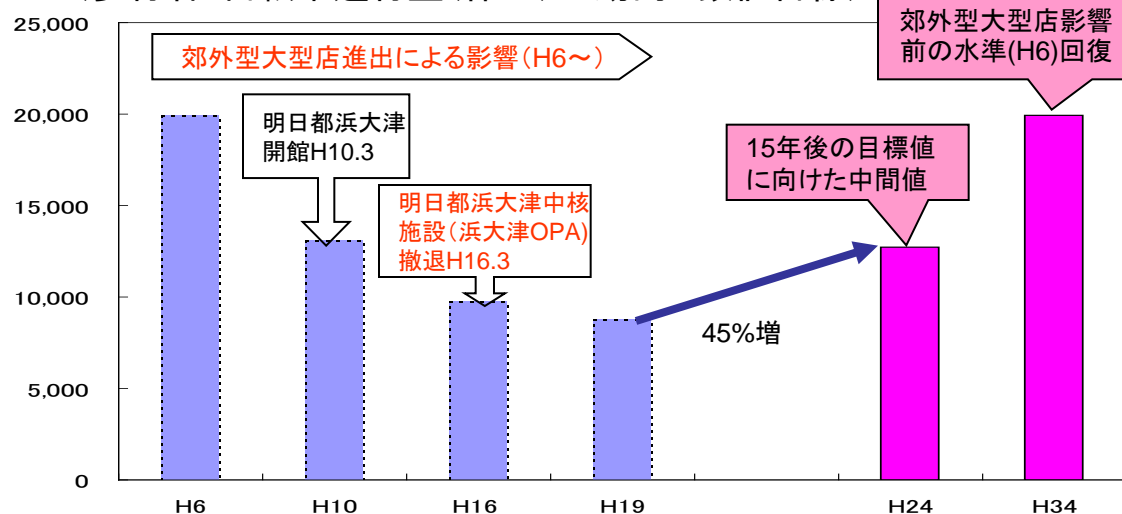


- 歩行者・自転車通行量(休日)の減少
H6: 19,932人 → H19: 8,742人 (△56%)
- 鉄道利用者数の減少
京阪電車浜大津駅の乗降人数の減少
H12: 6,895人 → H17: 5,636人 (△18%)
JR大津駅の利用者数の減少
H12: 6,747人 → H17: 6,408人 (△5%)

【目標】

目標	指標	現況値(H19)	目標値(H24)
・駅・港を結ぶ動線リニューアルによるにぎわい創出 ・町家等の活用による複合的都市機能の充実	休日の歩行者・自転車通行量(主要6地点合計)	8,742人	12,700人
琵琶湖湖岸・港における集客・交流機能の強化	琵琶湖観光客入込数	133.8万人/年	160万人/年

(人) (歩行者・自転車通行量(休日)の動向と数値目標)



※H6～H19は調査実施した年度の数値を基にした推定値(6地点合計)

町家に代表される歴史的建造物が生み出す「大津百町」のまちの佇まいを保存・再生・活用することにより、市民が誇り・集う中心市街地を形成するとともに、最大の集客要素である琵琶湖を生かす観光と環境共生のまちづくりを行うことにより賑わいを取り戻す

大津市中心市街地活性化基本計画の事業概要

駅・港を結ぶ動線リニューアルによる賑わい創出

市民との協働による町家を活用した歴史あふれるまちの魅力の向上

○町家の修理修景に対する助成制度設立、テナントミックス等への活用を「町家じょうほうかん」と連携しながら進め、**大津百町の歴史・文化を生かす暮らしと賑わいを創出**



町家をテナントミックスとして賑わいの再生に活用

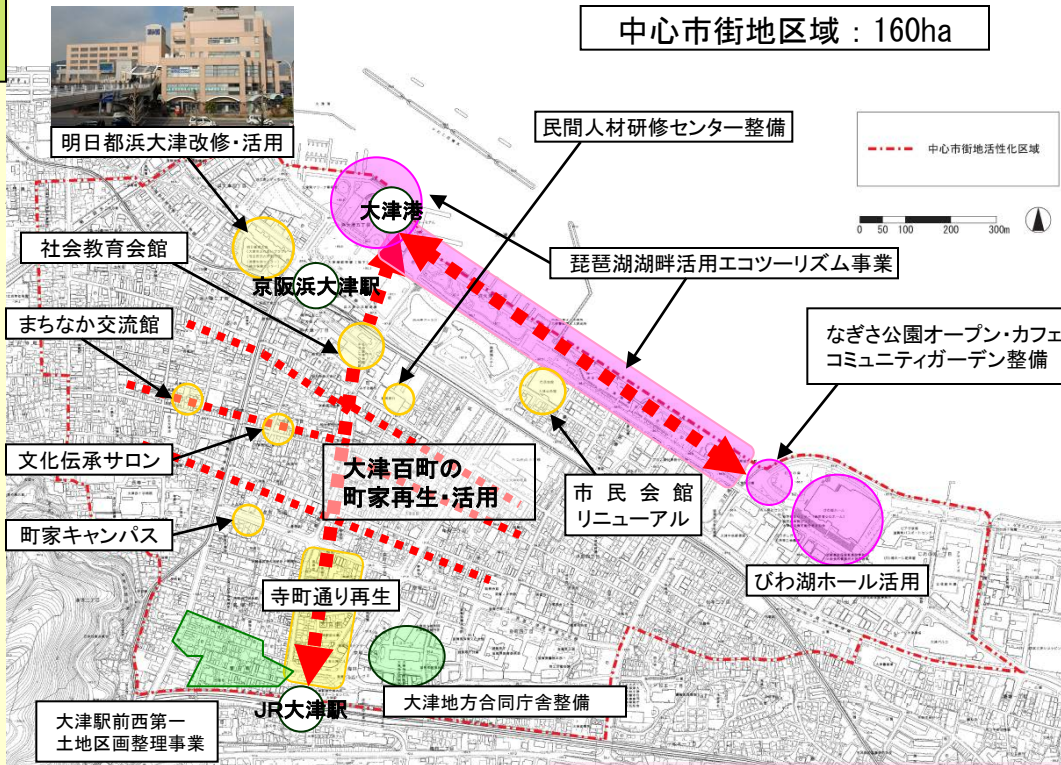
○まちなかに町家を活用した大学のキャンパスを設置し、**まちの新たな年齢層となる学生と住民の交流の場と創出**



町家キャンパス

○商業体験やチャレンジショップ、コミュニティ・世代間交流機能を持つ「**まちなか交流館**」、空き町家を活用した文化の伝承拠点である「**文化伝承サロン**」の整備し、**活性化軸からまちなかへ流れを生み出す**

○土地区画整理事業により新しく整備される道路に面した建物について、**町家の修景を実施し、まちの魅力を向上**



琵琶湖湖岸・港における集客・交流機能の強化

琵琶湖の豊かな自然を生かす環境共生のまちづくり

○琵琶湖湖岸における集客・交流機能の強化を図るため、**なぎさ公園、まちの新しい魅力を高めるオープン・カフェを整備**

○公園内に**コミュニティガーデン**を整備し、定期的に**集客イベント**を実施



なぎさ公園

○大津駅前から琵琶湖湖岸に続く本格的な**イルミネーションイベント**を実施し、**まちに賑わいを回復**



イルミネーションイベント

○昭和9年建築の歴史的建物を保存しつつ、集客店舗、交流施設、ホールとして整備し、**環境学習など港とまちなかをつなぐ拠点として活用**



社会教育会館

大津百町の歴史と琵琶湖の豊かな自然環境を生かした賑わい創出

○バリアフリー整備とあわせ、アーケード撤去に伴う建物のファザード整備を一体的に行うとともに、**テナントミックスによる活性化を図り、大津の玄関口である寺町通りの賑わいを再生**



○環境学習船の運航や、大津港にびわ湖・大津エコセンターを設置し、情報発信や湖岸での環境学習プログラムを展開し、**琵琶湖を生かす観光と環境共生のまちづくりを目指す**



大津港